

「イエスが教えた祈り」(要旨)

聖書箇所：マタイ 6:7-15

【1】 祈りを教えてください

弟子たちは「祈りを教えてください」(ルカ 11:1)とイエスに願いました。彼らはユダヤ人でしたから、宗教的義務(施し、祈り、断食)として当然祈っていました。それにも関わらず、祈りを教えてほしいと願ったのです。日毎に祈るイエスの姿を見て、自然にそう思ったのでしょう。イエスは人の目には熱心に祈っているように見えても誤った祈りがあると言われました。神ではなく人々の歓心を買おうとする偽善者の祈り(マタイ 6:5-6)、同じことばをただ繰り返す異邦人の祈り(6:7)がそれにあたります。

主イエスは弟子たちに祈りの模範を教えました。それが主の祈りなのです。

【2】 主の祈り

私たちが礼拝でささげる主の祈りは、神への呼びかけ、願い、そして結びの3部構成です。

まず、「『天にいます私たちの父よ。』という神への呼びかけから始まります。

次に、願いへと続きます。前半は神に関わる願い、後半は人に関わる願いとなっています。

神に関わる願い	人に関わる願い
1.(あなたの)御名が聖なるものとされますように。	4.私たちの日ごとの糧を…お与えください。
2.(あなたの)御国が来ますように。	5.私たちの負い目をお赦してください。
3.(あなたの)みこころが…行われますように。	6.私たちを…悪からお救いください。

D.M.Crump, "Dictionary of Jesus and the Gospels"の "Matthew's Two Parallel Petitions"の図を参照

最後に、「国と力と栄えは、とこしえにあなたのもだからです。アーメン。」と結びます。

私たちは、人に関わる願いを祈りの中心に据える傾向があります。それに対して、イエ

スが教えた祈りは違いました。「天にいます私たちの父よ」と、神を神として呼びかけることから始まり、神に関わる願いをし、その後、人に関わる願いへと展開し、最後に神を賛美して祈りを終えます。

【3】 天にいます私たちの父よ

どれだけ長時間祈ったか、声を張り上げて祈ったか、何度も繰り返し祈ったか。そうしたことを重要視する宗教もあります。主イエスは、祈る時に「天にいます私たちの父よ」と呼びかけるよう教えられました。天地万物の造り主なる神に向かって「父よ」と親しく呼びかけることができるのは、決して当たり前なことではないのです。それは、神がイエスの十字架の贖いによって、私たちが神の「子」としてくださったからなのです(参照:マタイ 10:19)。

イエスのご自分を信じる者が、父親の懐にいる子のように神に向かって「アバ、父よ」と祈ることができるようにしてくださいました。「そして、あなたがたが子であるので、神は『アバ、父よ』と叫ぶ御子の御霊を、私たちの心に遣わされました。」(ガラテヤ4:6)。

祈る対象を知る者は、祈りをささげる自分の熱心さにフォーカスを当てることから、私たちの全ての必要を知っておられる父なる神を信頼し祈るようにと促されます(6:8)。「神の前では、軽々しく心焦ってことばを出すな。神は天におられ、あなたは地にいるからだ。だから、ことばを少なくせよ。」(伝道者の書5:5)

▷イエスにあって神を「父」と呼ぶことができる身分とされたことを感謝して、「天にいます私たちの父よ」と祈ることができま

